

手指衛生率

70.1%

測定値の定義・計算方法

Process

分子：「WHOが推奨する手指衛生が必要な5つの場面」で適切に手指衛生が実施できた数

分母：「WHOが推奨する手指衛生が必要な5つの場面」院内11部署で月40場面(月440場面/月)

活動のきっかけ

病原微生物が医療従事者の手指を介して伝搬することは広く知られており、手指衛生は交差感染防止のためにも、重要な感染対策のひとつである。そのため、直接観察法による手指衛生サーベイランスを実施することで実際に感染対策（手指衛生）が実施されているかを把握し、分析・評価することで院内における病原微生物の伝搬予防に繋げることを目的とし、感染活動を始めた。

改善活動部門

- 感染防止対策室

考察

上手くいったこと	課題と感じたこと
<ul style="list-style-type: none">手指衛生の実施状況を確認するため、iPadを活用したサーベイランスへと変更したことで、観察結果をその場でデータとして確認できるため、職員への速やかなフィードバックや改善支援につなげることができた。	<ul style="list-style-type: none">感染管理担当者だけで継続的に手指衛生サーベイランスを実施することには限界がある。今後は、各部署・部門で手指衛生の指導を担う職員を育成し、日常業務の中で継続的な教育や声掛けが行える体制づくりが必要。そのためには、定期的な勉強会を開催し、教育者を増やし病院全体での手指衛生の向上に取り組む必要がある。